

祈りと平安 ピリピ人への手紙 4:6-7

香港JCF
2010年7月25日

I 思い煩い(積極的な信仰の欠徐)

1. 不安自体は心の機能(中立:警告機能)
2. 思い煩い(不安による支配)は信仰の課題
3. 思い煩い
→①自分・世界・神を否定的に見る→②否定的な見方に安住し、不安と無力感に慣れ、主体的・積極的な信仰に違和感→③依存的、観念的、失敗を恐怖:安全、無力、縮小信仰→対策:コロサイ3:15

II 感謝(思い煩いへの処方箋)

1. 神の視点で出来事を見、神に委ね、全ての事が信仰の益となる事を信じ、臨在を喜ぶ
2. 信仰で将来の祝福を受け取り、勝利者としての心的態度(確信・平安)に生きる
3. 将来の祝福の前味を神とともに楽しみ、礼拝する→神の勝利の確信(ロマ8:35-39):感謝は思い煩いの対極にある

III 祈りと願い(平安への鍵)

1. 求めを祈る(不安を意識・告白するプロセス)
2. 祈りと願いは事実と感情を伴う
3. 神さまに集中し、告白し、主を見上げる
→具体的な祈り(事実と感情):「神さまに告白し、聴き入れられた」との確信が鍵
主ご自身の祈りの秘訣:へブル5:7→主の名で

IV 平安(積極的な信仰の結果)

1. 平安←(事実と感情を伴う)祈りへの応答
2. 平安→霊的な心・思いの守りと癒し
3. 意識されず、委ねない不安が思い煩いの源
→小グループと自己への気付きの必要
4. 十字架直前の主の祈り:ヨハネ14:27、16:33
→み霊による平安・支配・勝利

み言の適用

1. 思い煩いから平安への道は気質や状況を越えたみ言に基づく積極的な信仰から
2. そのため、祈りが具体性と感情を伴う、主に向けられたものになる事が必要です
3. 自分の祈りを振り返り、少しずつ実践してみましょう 必要な助けがあれば活用しましょう